

植物の「毒」とチョウの戦略

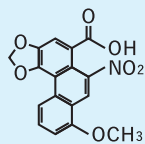
昆虫の食害に対抗するための植物の「毒」
でもそれをうまく利用する昆虫がいます

ウマノスズクサは昆虫による食害から身を守るために”アリストロキア酸”という毒素をもっています。しかし、ウマノスズクサを食草とするジャコウアゲハの幼虫はこの毒素に耐性があり、葉を食べて成長しながら体内に毒素をためます。幼虫はもちろん、蛹の表皮、成虫、卵の殻にも蓄積し、毒をもつことをアピールするように、成虫も目立つ色彩(警戒色)をしています。鳥はジャコウアゲハを食べてもまずくて吐き出してしまい、その後ジャコウアゲハを食べなくなります。このため、ジャコウアゲハに擬態して身を守る種もいくつか存在します。

ジャコウアゲハとウマノスズクサ



アリストロキア酸
ウマノスズクサ属特有の
防御物質



ジャコウアゲハに擬態する
オナガアゲハ